令和６年度障がい者虐待防止等研修事業（鳥取県委託事業）／障がい者虐待防止・権利擁護公開講座

＜筋萎縮性側索硬化症とは＞

筋萎縮性側索硬化症（ALS）とは、手足・のど・舌の筋肉や呼吸に必要な筋肉がだんだんやせて力がなくなっていく病気です。しかし、筋肉そのものの病気ではなく、筋肉を動かし、かつ運動をつかさどる神経（運動ニューロン）が主に障害をうけます。その結果、脳から「手足を動かせ」という命令が伝わらなくなることにより、力が弱くなり、筋肉がやせていきます。その一方で、体の感覚、視力や聴力、内臓機能などはすべて保たれることが普通です。

映画『杳かなる』上映会＆宍戸監督トークショー

前作「道草」から６年、新しい映画ができました。
難病 ALS（筋萎縮性側索硬化症）に罹患し社会からの孤立感をおぼえながら、同病の先行者や支える人びとと出会い、ふたたび社会とのつながりを求めて歩き出すひとりの女性の姿を、３年半にわたって記録しました。
タイトルは、「杳かなる」（はるかなる）。
「杳」（よう）という漢字は、木の下に日が沈んだ様をあらわしています。
暗くてはっきりしない、奥が深い、はるかに遠いという意味があるそうです。
進行性の難病を生きるということは、この「杳」という字があらわすように、ときに先の見通しを持つことのできない絶望の日々です。映画の撮影をはじめる時、この映画はあらかじめ目的地の決まっている”旅行”ではなくあてどなくさまよう”旅”のような映画になると予感していました。想像していたよりもずっとつよく深く、出演者も製作スタッフもこの映画自体も、根底から揺さぶられる時間が待っていました。考えてもいなかった別れがあり、言葉をなくし、立ち尽くしました。
けれど、そんな喪失をかさねる日々にあっても喪わずにのこるもの、あたらしくつかめるものがあることを、わたしたちはこの３年半に知りました。
絶望の淵に佇っているひとりに向けて届けたいと、この映画はつくりはじめました。
ふさぎこんで声も出ないひとの隣に静かにある―そんな映画になっていたら本懐です。

参加無料
（お申し込みが必要です。）

令和６年12月3日㈫

開演 13:30 ～ 16:00（開場 13:00）

会場 エースパック未来中心 小ホール

定員 300名 字幕・手話通訳あり

プロフィール 宍戸（ししど） 大裕（だいすけ）

映像作家。学生時代、東京の自然豊かな山、高尾山へのトンネル開発とそれに反対する地元の人びとを描いたドキュメンタリー映画『高尾山 二十四年目の記憶』（2008 年）を製作。それからの監督作品に『犬と猫と人間と ２一動物たちの大震災』（13 年劇場公開）、『風は生きよという』（16 年劇場公開）、『百葉の栞 さやま園の日日』（16 年製作）、『道草』（19 年劇場公開）がある。現在、難病 ALS を抱えながら生きる人々の ３ 年半を描いた最新作『杳かなる』（はるかなる）の公開を準備中。東京と岩手で ２ 拠点生活をおくり、岩手で「クマとひとの共存を探る映画」の制作を始めて５年目になる。

【お申し込み方法】

鳥取県社会福祉士会ホームページ **https://www.csw-tottori.jp/**

トップページ右上の『研修・SV 申し込み』より **11 月 30 日（土）** までにお申し込みください。

■ 主催・お問い合わせ先：一般社団法人鳥取県社会福祉士会事務局 ☎0857-30-6308